

令和元年度事業報告書

公益財団法人として移行後 8 年目を迎えた当財団は、①精神文化に関する研究及びその成果の普及、②地域における歴史・文化の研究及びその成果の普及、③附属図書館の運営及び図書資料の充実・整備の 3 つの柱からなる令和元年度（以下「元年度」という。）事業計画を着実に推進し、文化の振興に寄与しました。

元年度は、当研究所設立の精神を図示した日本精神文化曼荼羅の保存環境整備事業、沿革史資料の OPAC（Online Public Access Catalog オンラインで検索可能な蔵書目録）公開、図書館での「子供向け精神文化資料コーナー」新設に向けた資料収集など、令和 3 年度の大倉邦彦没後 50 年、翌 4 年度の研究所創立 90 周年に向けた事業に力を注ぎました。

1 精神文化に関する研究及びその成果の普及(定款第4条第1項第1号)

(1) 実用の学の研究及びその成果の普及

当財団の活動は、精神文化についての学究的な一面とともに、その学問が現実社会の宗教・教育・政治・経済の実地にふれ、よりよき社会への進展に貢献するという一面も備えています。

実用の学の研究では、このような考えのもと、実業家の実学観や文化事業・教育事業等の調査・研究や資料収集を行っています。

当研究所を創立した大倉邦彦は、自らの使命を實踐して社会に貢献するためには、清らかで強い心を持たなくてはならないと説き、当研究所で修養会等を開催しました。

そこで、元年度は、「こころを磨き からだを鍛える」をテーマに、神道、儒教、仏教、キリスト教、武道、芸道、医学等様々な分野から心身の磨き方について研究を進めました。

その研究成果の一部は、大倉山講演会や、『大倉山論集』第 66 輯の小特集(3 頁・4 頁参照)で公開しました。

【大倉山講演会】

■共催: 横浜市大倉山記念館指定管理者 会場: 横浜市大倉山記念館ホール

回	開催日	演 題	講師	参加人数
第 86 回	4 月 20 日	漢学と武道 —二松學舎の三島復を例として—	川邊雄大	43 人
第 87 回	5 月 18 日	自他を善化し、万物を浄化する —ミソギとハラエの意義を読み解く—	西岡和彦	45 人
第 88 回	6 月 15 日	しつけ、修身、道徳、生きる力を身につける —戦前期の「報徳教育」を読み直す—	須田将司	31 人
第 89 回	3 月 21 日	江戸時代医学諸派にみる身体観と養生思想	町泉寿郎	新型コロナウイルス 感染拡大防止のため 開催延期

(2) 東西文化融合の研究及びその成果の普及

日本の近代化と西洋文明の受容は、日本人の価値観や思想に大きな変化を及ぼしました。

創立者大倉邦彦は、国民の教育や人格形成において、日本の伝統文化を学ぶことが基本であると説き、当財団を設立しました。その一方で、大倉邦彦は上海の東亜同文書院で学んだ経験や、実業家として世界を廻った体験から、東洋文明の枠組みに囚われることなく、西洋文明の学問成果の良いところも積極的に取り入れることを提唱しました。

そこで元年度は、近代化が日本人の信仰や心身の修養などに与えた影響に着目して研究を進めました。さらに、大倉邦彦の思想に影響を与えたインドの詩聖タゴールの思想や東亜同文書院の研究、国際的文化人として東洋と西洋で活躍した岡倉天心の研究も進めました。研究成果の一部は、下記の公開講演会で発表しました。

また、日本精神文化曼荼羅環境整備事業の終了と附属図書館のリニューアルオープン並びに「大倉山記念館の魅力発見 オープンギャラリー」の開催を記念して、横浜市大倉山記念館指定管理者との共催により、7月31日に「邦彦・方外と日本精神文化曼荼羅」と題したイベントを開催し、日本精神文化曼荼羅の紹介動画「大倉邦彦と鑑賞する日本精神文化曼荼羅」の上映会と講演会を開催しました。

【公開講演会】

■共催：愛知大学 会場：横浜市大倉山記念館ホール

回	開催日	演 題	講師	参加人数
第17回	7月6日	企業のCSRと環境会計について	富増和彦	42人

■共催：岡倉天心市民研究会 会場：横浜市大倉山記念館ホール

回	開催日	演 題	講師	参加人数
第5回	11月30日	岡倉天心と五浦	小泉晋弥	49人

■協力：港北図書館、港北図書館友の会 会場：横浜市港北図書館 2階会議室 A

開催日	演 題	講師	参加人数
1月26日	1940年、幻の東京オリンピックと横浜	平井誠二	36人

(3) 創立者及び研究所関連資料の研究・調査とその成果の普及

精神文化についての科学的研究及びその普及活動を行ううえで、研究の基礎となる資料を収集・整理・保存することが欠かせません。それを実践することにより、研究及びその普及活動を効率的・効果的に進めていくことができます。

このような考え方に立って、創立者である大倉邦彦の思想や事績、研究所の創設から現代に至る沿革等の調査・研究、資料収集等を継続的に実施しています。

元年度は、経常的な資料整理作業（附属明細書 1 頁参照）に加えて、特にアナログ音源のデジタル化事業に取り組みました。

ア アナログ音源のデジタル化事業

当財団では、大倉邦彦を始めとする研究所関係者の肉声を記録したオープンリールテープや各種カセットテープ、SPレコードなどを所蔵しています。しかし、テープ類は劣化が著しく、また再生機器も無くなりつつあるのが実情です。そこで、元年度は、カセットテープ 17 本をデジタル化しました。

イ 写真のデジタル化事業

沿革史資料の中には、当研究所設立準備中から今日に及ぶ様々な写真類も含まれています。これらの写真は、当財団の活動内容や地域の様子を知る上で貴重な情報源となります。外部機関よりの問合せや借用依頼も多いことから、この写真類のデジタル化を進めました。

ウ 沿革史資料目録の OPAC 公開

現在整理作業中の沿革史資料は、整理済み資料の目録件数が約 10 万件となり、外部研究者からの問合せや閲覧利用が増えつつあります。

そこで、平成 30 年度より目録データを、図書館情報管理システム「情報館」のデータに順次変換し、OPAC による目録公開を開始しています。元年度は 16,189 点を公開しました。

エ 資料の展示

資料調査や研究成果公開の一環として、研究所資料展を 2 回、特別資料展を 2 回開催しました。

【研究所資料展】

回及び開催場所	開催時期	テーマ	入場者数
第40回研究所資料展 (附属図書館)	7月31日～10月19日 (57日間)	日本精神文化曼荼羅の魅力 —宗教画家 井村方外の世界—	932人
第41回研究所資料展 (附属図書館)	10月31日～2月29日 (84日間)	横浜と相撲展 —横綱武蔵山没後50年記念—	3,001人

【特別資料展】

■共催: 横浜アリーナ

回及び開催場所	開催時期	テーマ	入場者数
第16回特別資料展 (横浜アリーナ)	4月27日 (1日間)	第33代横綱 武蔵山展 —日吉から大相撲の頂点へ—	—

* 入場者数が未記載なのは、展示会場がオープンスペースのため

■協力: 港北図書館

回及び開催場所	開催時期	テーマ	入場者数
第17回特別資料展 (港北図書館)	3月5日～3月31日 (26日間)	横綱武蔵山と港北の相撲展	新型コロナウイルス 感染拡大防止のため 開催延期

(4) 印刷物の編集及び発行・電子情報の発信

当財団では、精神文化の研究成果を広く国民全体に普及し、国民生活の向上充実に役立つように公開する手段の1つとして、印刷物や電子情報を提供しています。

ア 研究紀要『大倉山論集』の編集・発行

『大倉山論集』第 66 輯を刊行しました。

第 66 輯 (A5 判 435 頁 550 部 令和 2 年 3 月刊)

小特集 こころを磨き からだを鍛える	
特集にあたって	公益財団法人大倉精神文化研究所
自他を善化し、万物を浄化する —今泉定助のミソギとハラエの意義を読み解く—	西岡和彦
昭和戦前期と戦後教育改革期における「報徳教育」 —「天道」—「人道」論と「芋こじ」に見出された教育的意義—	須田将司

論説	
一閻浮提・月氏・半島―日蓮の体制相対化をめぐって―	丹治正弘
第七高等学校「造士館」号の研究	木崎弘美
武藤山治の社会貢献活動―大里児童育成会の設立―	山本長次
近現代日本の公害史研究と公害関係資料	清水善仁
覚書	
江戸小日向伊勢屋長兵衛の奉公人	岡崎寛徳
刊行物にみる金沢甚衛の横顔―社会事業の実践と歴史研究を中心に―	古畑侑亮
新出資料からみる帰一協会の全体像―沿革史資料を中心に―	星原大輔
資料紹介	
『大和為善録』翻刻と解題	董 航
報告	
展示会「日本精神文化曼荼羅の魅力―宗教画家 井村方外の世界―」	星原大輔
講演録「出会いの百年 日本とベンガル～タゴール、武田ホリプロバ、そして村上春樹へ～」	デヴァリナ・ムケルジー 関口真理
受贈図書一覧	
所報	

イ 各種リーフレット等の編集・発行

当財団の活動目的や活動内容の周知を図り、研究成果の公開や普及活動の効果を高めるために、講演会チラシ、展示会チラシ等を編集発行しました。また、元年度は日本精神文化曼荼羅を紹介するリーフレットとクリアファイル、大倉山記念館でロケーション撮影が行われた作品を紹介する「横浜市大倉山記念館ロケ地ガイドマップ」vol.1を作成しました。

ウ 電子情報の発信

当財団のホームページ等を活用し、研究成果や講演会、展示会等の情報を積極的に発信しました。SNSの活用として、ツイッターによる情報発信も行いました。

また元年度は、大倉邦彦が昭和38年頃に自ら研究所本館（現横浜市大倉山記念館）を案内した際の録音テープ「研究所案内」の音源をノーカットで公開するとともに、『大倉山論集』第65巻の内容をPDF（Portable Document Format）で公開しました。

2 地域における歴史・文化の研究及びその成果の普及(定款第4条第1項第2号)

(1) 他機関との連携事業

横浜市大倉山記念館指定管理者等の5団体・機関と連携して、10件のイベントを開催しました。

【共催等の事業】

時期	主催団体・機関名	連携事業
4月20日	大熊弁玉顕彰会主催	「第4回ゆらむろ忌」を後援

6月23日	港北ふるさとテレビ局主催	「第9回港北ふるさと映像祭」に協力
7月31日～8月18日	横浜市大倉山記念館指定管理者主催	「大倉山記念館の魅力発見 オープンギャラリー」を共催
9月8日	横浜市大倉山記念館指定管理者主催	「大倉山記念館オープンデイ」を共催
10月5日	横浜市大倉山記念館指定管理者主催	「今昔建築サロン」を共催
10月13日	横浜市大倉山記念館指定管理者主催	「タゴールの歌と舞～ベンガル語の響きとインドの旋律～」を共催 (台風19号接近のため公演中止)
10月31日～11月4日	大倉山秋の芸術祭実行委員会主催	「第35回大倉山秋の芸術祭」を後援
11月3日	科研グループ「現代インドの英語文学」主催	「インド人先生の文学トークとサロン」を共催
2月9日	横浜市大倉山記念館指定管理者主催	「大倉山記念館オープンデイ」を共催
2月29日	横浜市大倉山記念館指定管理者主催	「今昔建築サロン」を共催 (新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)

(2) 講師派遣

港北区役所等の13団体・機関からの依頼により、講演、授業、シンポジウム等に講師を派遣しました。

時期	団体・機関名	テーマ及び派遣講師
5月14日	港北区役所	もっと知りたいわがまち港北～聴いて、見て、歩いて、発見！～「区制80周年を迎えて」(平井誠二)
5月20日	横浜市下田地域ケアプラザ	男の！セカンドライフカレッジ「わが町再発見！日吉の魅力～ぶらりと日吉の町を歩きながら、歴史を体感しよう～」(平井誠二)
5月20日	ビジネス支援図書館推進協議会・一般財団法人機械振興協会経済研究所	第8回情報ナビゲーター交流会「公共図書館や地域社会、企業との連携」(平井誠二)
6月9日	報徳博物館	第558回報徳ゼミナール「好事家の旅と小田原北条氏研究—福住正兄と小室元長の交友から—」(古畑侑亮)
6月16日	武蔵野文化協会	小机の散策(平井誠二)
7月4日	明治神宮国際神道文化研究所	「御逸事」第一冊(年中行事)の翻刻と注記の案について(平井誠二)
7月20日	新羽小学校土曜塾	鶴見川の水害とめぐみ(平井誠二)
7月26日	COCOしのはら	しのはら地域子ども塾「篠原の歴史を学ぶ」(平井誠二)
7月26日	COCOしのはら	第21夜COCOプレミアムナイト「港北区と篠原の80年」(平井誠二)
9月24日、27日	港北区役所	もっともっと知りたい！「わがまち港北」ヒストリー(平井誠二)
10月5日	横浜市大倉山記念館指定管理者	今昔建築サロン—建築編—(林宏美)
11月8日	神奈川東ロータリークラブ	大倉山記念館の歴史(平井誠二)
11月14日	専門図書館協議会	図書館総合展フォーラム あなたも使える専門図書館～様々な連携の形「国民のための専門図書館～大倉精神文化研究所附属図書館の連携事業～」(平井誠二)

(3) 依頼原稿の執筆

ASA 大倉山等の3団体・機関発行の情報紙等へ13本の原稿を執筆し、掲載されました（附属明細書1頁参照）。

(4) 調査協力・記事掲載

- ① 4月25日、尾崎様より大倉邦彦米寿記念の万年筆の寄贈を受けました。
- ② 6月6日、江原様より大倉邦彦関係資料91点の寄贈を受けました。
- ③ 8月10日、8月31日、10月29日、10月31日、11月1日、12月10日、2月8日、3月27日、寺田様より横綱武蔵山関係資料並びに横浜市域の古地図等の寄贈を受けました。
- ④ 9月20日、鈴木様よりタゴール著『SADHANA』の翻訳原稿の寄贈を受けました。
- ⑤ 10月19日、山本様より東南アジア・南西アジア関係図書多数の寄贈を受けました。
- ⑥ 1月7日、株式会社新潮社へ出版物掲載資料として大倉精神文化研究所本館当時（戦後）の写真データを提供しました。
- ⑦ 大倉精神文化研究所や大倉山記念館、港北区などに関する記事執筆の調査への協力や、当財団主催イベント紹介が、『神奈川新聞』等の22新聞・雑誌・ウェブで、51記事掲載されました（附属明細書2頁参照）。

(5) 見学案内

緑区生涯学級部会「横浜線ものがたり」等の9団体・機関からの依頼により、大倉山記念館や周辺地域の見学案内を実施しました。

時期	団体名
5月24日	緑区生涯学級部会「横浜線ものがたり」
7月20日	新生紙パルプ商事株式会社一行
8月24日	千葉県立千葉高等学校一行
9月20日	遊子の会
10月19日	大曾根六地区町会・南台町会一行
11月21日	新吉田あすなろ地区保険推進委員会
12月11日	まめどくれっしゅ
1月9日	新神奈川100選の会
2月26日	NHK文化センター 横浜ランドマーク教室

3 附属図書館の運営及び図書資料の充実・整備(定款第4条第1項第3号)

(1) 図書館の公開

附属図書館（以下「当館」という。）は、哲学・宗教・歴史などの入門書から専門図書まで約11万冊を備えた精神文化の専門図書館です。毎週火曜日から土曜日まで週5日間、午前9時30分か

ら午後4時30分まで無料で公開しています。元年度は延べ225日開館しました。

この期間中、日本精神文化曼荼羅移設工事のため、7月9日から30日まで休館しました。また、新型コロナウイルス感染拡大防止への対応として、3月5日から16日まで休館とし、3月17日から31日まで第1・第2閲覧室と公開書庫を閉室して、予約による貸出と返却に限りサービスを行いました。

当館のPRと新規利用者の獲得、地域住民との交流のため、大倉山記念館や地域のイベントに合わせて4日間の臨時開館を実施しました。(附属明細書2頁・3頁参照)

【図書館利用の実績】

	開館日数	入館者数	図書貸出冊数	閉架図書閲覧冊数	複写枚数
令和元年度	225日	5,282人	4,436冊	229冊	1,020枚
平成30年度	247日	6,118人	4,514冊	207冊	1,334枚

- ・蔵書検索アクセス数:1,065,416件
- ・図書館貸出カード登録者数:171人(平成30年度203人、累計1,810人)
- ・レファレンス件数:12件(平成30年度44件)
- ・館内見学者数:26回、311人(平成30年度47回、517人)

(2) 資料の収集

ア 収集方針

当館では、精神文化に関する専門的図書資料、特に神道・儒教・仏教及び歴史の専門的資料に重点を置いた収集を行うと共に、入門書・教養書等も幅広く収集・整備することを方針としています。

元年度は新たに1,282冊の図書を収集・整備し、OPACで公開しました。また、大倉邦彦没後50年を記念した「子供向け精神文化資料」のコーナー設置に向けて、資料収集を開始しました。

【元年度受入図書実績】

	閉架図書			開架図書		
		購入	寄贈		購入	寄贈
受入総冊数 947冊	152冊	49冊	103冊	795冊	702冊	93冊

元年度末蔵書冊数:図書・AV資料総数:107,054冊・点(閉架書庫84,511冊・AV資料217点・開架図書22,326冊)

【30年度受入図書実績】

	閉架図書			開架図書		
		購入	寄贈		購入	寄贈
受入総冊数 1,282冊	294冊	78冊	216冊	988冊	710冊	278冊

30年度末蔵書冊数:図書・AV資料総数:106,296冊・点(閉架書庫83,020冊・AV資料210点・開架図書23,066冊)

イ 蔵書点検

日本精神文化曼荼羅移設工事による休館期間(7頁上段参照)に蔵書点検を実施し、不明本35冊の所在確認、208冊の目録データ不備を修正しました。これに連動し、利用者から問い合わせの

多い「大倉精神文化研究所関連資料」「タゴール関連資料」「郷土資料・横浜」の3つの資料コーナーを公開書庫内に設けて、利用の便を図りました。

(3) 専門図書館としての機能充実

当館の貴重コレクションは、23 種約 40,000 冊(点)に研究所沿革史資料(約 100,000 点)を加えた 24 種類に及びます。これらの資料の大半は他館に書誌情報がないため、独自に書誌情報のデータ化を進めており、現在 14 コレクションの OPAC 検索が可能となっています。

元年度は残り 10 コレクションの書誌データ作成を進め、専門図書館としての機能充実を図りました。

また、『専門図書館探訪—あなたの「知りたい」に応えるガイドブック』(勉誠出版、10 月刊行)に当館も掲載され、専門図書館としての広報の一助になりました。

ア 貴重コレクション書誌データの OPAC 公開

貴重コレクションのうち、和装本コレクション約 9,600 冊(点) の原簿番号や虫損被害状態等の確認作業を行い、その詳細情報を目録データに反映させる再処理を元年度より開始しました。

また、大倉邦彦旧蔵文庫約 3,000 冊(点) は書誌データ 176 点を作成し、OPAC で公開しました。(5 ヶ年計画の 3 年次目、累計 1,240 冊作成)

イ 書庫内資料の簡易データの詳細化とバーコード貼付

当館では、図書館情報管理システムを短期間で導入することと、その運用開始時からより多くの資料の OPAC 検索を可能にすることを基本方針としました。そのため、多くの資料について書名・著者名といった最小限の項目だけを入力した「簡易書誌データ」を使用して運用を開始しました。システム導入後は、簡易書誌データに出版者・出版地・出版年・件名・キーワード等を補完する詳細データ化を継続的に進めてきました。

元年度は、約 43,000 件の簡易書誌データの詳細データ化と、バーコード未貼付資料の貼付作業とを合わせて行う再処理を約 1,540 件行いました。(10 ヶ年計画の 3 年次目)

ウ 貴重コレクション資料の撮影

貴重コレクションは、資料保存の観点からコピーを禁止しており、その代替措置として、複写依頼のあった資料については司書によるデジタル撮影を実施しています。

元年度は大学・研究機関・研究者・放送局等からの複写依頼を受け、金澤甚衛旧蔵資料『八丈島樫立村関係資料』『遠山金四郎役宅日記』『半蔵口御門ニテ変事勤方留書』、旧制高等学校文庫『一校同窓会』など、12 件 842 枚の撮影を実施しました。

エ 和装本コレクションコーナーの整備

当館では貴重コレクションの一つとして、和装本コレクション約 9,600 冊(点) を所蔵しています。これらは一般書籍に混在して配架されており、資料保存の観点から一ヶ所に集約するための書架移動作業を進めてきました。元年度は約半数の移動が終了しました。(5 ヶ年計画の 4 年次目)

オ 第 1 期経年劣化本修復事業

当館の貴重コレクションの中には、400 年余り前の『プラトン全集』『アリストテレス全集』や手書きの『遠山金四郎役宅日記』等、他館には所蔵されていない貴重資料が数多く含まれています。そのため、資料を健全な状態で保存して後世に伝えて行くことは、当館の重要な役割の一つ

です。しかし、経年劣化によって革表紙の傷んだ資料や、虫損等で利用不可となっている和装本が多数あります。そこで元年度は、専門業者へ委託して革装本の修復や和装本の補修を計55冊実施しました。（2ヶ年計画の1年次目）

また、ボランティアの協力を得て継続してきた和装本各冊の保存箱作成は、大名榊原家文庫136個（累計1,163個）の保存箱作成及び入れ替えを行いました。

(4) 情報提供機能等の充実

ア レファレンスサービスの充実

当館は、全国でも珍しい精神文化に関する専門図書館として、専門図書館の公開に加えて、レファレンスの情報提供能力の向上が求められています。元年度も専門図書館協議会、神奈川県図書館協議会、都内専門図書館、株式会社ブレインテックなどの各種団体・図書館が主催する見学や交流会、図書館関連で日本最大の展示会である図書館総合展などに参加して、情報提供機能の充実を図りました。

イ ホームページの活用と OPAC サービスの高性能化

当館の利用者は、全国の研究者と近隣住民に大別できます。研究者は当館ホームページからインターネット検索により専門資料の利用に至ります。一方、近隣住民は直接来館し、一般図書を利用していますが、精神文化に関する図書館であるために、来館者の年齢構成はシニア世代の利用が比較的多数を占めています。しかし、当館は丘の上に立地しているために気軽な来館利用が困難であるという不利な条件を抱えています。そのため、いずれの利用者からもホームページの活用を一層進めて、図書館からの情報発信を増やすことが求められています。

そこで、書誌データの詳細化や貴重コレクションのOPAC検索対応を進めると共に、新着図書やおすすめ本の紹介を毎月2回発信したほか、資料展示・催し物の案内を随時更新し、ツイッターも活用しながら情報発信を行いました。

また、当館は図書館情報管理システム「情報館」を導入していますが、元年度はOPACサービスをバージョンアップしました。これにより、スマートフォンに最適化された蔵書検索画面の表示が可能となり、利用者の利便性が高まりました。

ウ 所蔵資料の紹介展示

当館では所蔵資料の紹介展示を開催しています。図書館ミニ展示では、大倉山講演会等の広報と、それらの参加者が内容理解を深め、知識を広げられるようにすることを目的とした関係資料の展示を4回（下記表、当該展示のタイトルに※印）、日項目にすることの少ない大型資料や「即位の礼」など、時節に合った資料の展示を7回開催しました。

また、貴重コレクションを主な展示品とする図書館資料展は、創立者大倉邦彦の生誕地である神埼市の市立図書館との姉妹図書館提携を記念して、大倉邦彦と神埼市をつなぐ資料の展示を1回、和装本コレクションから「礼儀類典」を紹介する展示を1回、開催しました。

(ア) 図書館ミニ展示（第1閲覧室内に展示）

タイトル	期 間	入場者数
第1回「新元号と万葉集」	4月2日～27日	407人

※第2回「漢学と武道」 大倉山講演会「漢学と武道—二松学舎の三島復を例として—」関連	4月9日～4月27日	301人
第3回「天皇と即位」 天皇即位式、有職故実に関する資料	5月2日～5月31日	344人
※第4回「ミソギとハラエ」 大倉山講演会「自他を善化し、万物を浄化する—ミソギとハラエの意義を読み解く—」関連	5月7日～6月29日	651人
※第5回「しつけ、修身、道徳」 大倉山講演会「しつけ、修身、道徳、生きる力を身につける—戦前期の「報徳教育」を読み直す—」関連	6月1日～6月29日	334人
※第6回「宗教と美術」 研究所資料展「日本精神文化曼荼羅の魅力」関連	9月3日～9月28日	321人
第7回「般若心経を写経する」 大倉山秋の芸術祭の図書館ワークショップ写経体験の関連	10月1日～11月9日	1,115人
第8回「読書を楽しもう」 読書の秋にちなんで	11月19日～12月27日	532人
第9回「新年を寿ぐ 七福神」 参詣者の増えている七福神詣でや民間信仰に関連する資料	1月4日～2月1日	426人
第10回「東大寺お水取り」	2月7日～3月4日	2,793人
第11回「花さまざま」 記念館オープンデイ、観梅会来館者に貴重な資料を紹介	2月9日、22日、23日	616人

(イ) 図書館資料展（閲覧室内展示ケース・入口展示ケースに展示）

タイトル	期間	入場者数
第21回「祝 姉妹図書館提携大倉精神文化研究所附属図書館と神埼市立図書館」	5月2日～	継続中
第22回 貴重コレクションを探る(和装本コレクションより)「礼儀類典」	4月2日～6月29日	1,720人

(5) 姉妹図書館提携事業の推進

神埼市立図書館との姉妹図書館提携にちなみ、大倉邦彦と神埼市をつなぐ資料展示を行いました（10頁参照）。さらに研究所ホームページのデジタルアーカイブコーナーで「大倉邦彦と佐賀2」のページを公開しました。また、現地での資料調査や聞き取り調査の実施、関係各所との連携強化を図り、今後予定している提携事業実施に向けた準備作業を進めました。

(6) 日本精神文化曼荼羅環境整備事業(一部再掲)

第1閲覧室に展示している日本精神文化曼荼羅は、大倉邦彦創案・井村方外描画により、研究所設立の精神を図示した貴重な絵画です。展示環境を整備して永年保存を可能にするため、展示ケースを新設しました。この工事に伴い、7月9日から7月30日まで休館しました（7頁参照）。

7月31日には、リニューアルオープンイベントを前掲（2頁参照）のとおり実施し、併せて日本精神文化曼荼羅をデザインしたクリアファイルを作成して配布しました。